



## 御柱祭行われる

4月15日(土)・16日(日)に戸倉水上布奈山神社の神事「御柱祭」が1年遅れで行われました。上の写真は「一之柱」を曳行している様子です。200年続く御柱祭に使用する赤松は長さ13.65mで、今年も無事にお祭りが終了しました。

**特集** わがまちの自慢

## 《主な掲載記事》

- 新分・支館長さんに聞きました… 2
- 令和5年度 分・支館長・編集委員の紹介… 3
- 公民館人事・公民館に期待すること… 4
- 特集 わがまちの自慢 …… 5
- サークル紹介 …… 6
- リレーエッセイ…… 7
- もっと知りたいふるさと…… 8  
(小船山地区)

# 新分・支館長さんに聞きました

4月から各分館・支館の活動が新しいスタートを切りました。その活動の中心となる各地区の新分・支館長さんに次の①②について伺いました。

- ①分・支館の主な活動計画
- ②地域の皆さんへのメッセージ

第4分館長（屋代）

南澤 芳美



①屋代第4分館では、6月に分館対抗の野球と排球大会、7月に夏山ハイキング（上高地）、8月にボッチャ大会。その他には敬老会、文化祭、小学生オセロ大会などを計画していますが、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら実施していきたいと考えています。

②分館の各種活動、行事は区民の皆様が親交を深め、地域のコミュニケーションを図る上で大切であると考えています。

す。役員一同頑張りますので皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

打沢分館長（埴生）

滝澤 克己



①本館行事への参加の他、分館マレットゴルフ大会、9月に敬老会、10月に人権教育研修会、12月にしめ縄作り等を予定しています。

②コロナ禍で3年間で中止されてきた行事の復活を予定していますが、過去の踏襲とは異なりますので、安全安心な活動を模索していきたいと思えます。つきましては区民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いしたいと考えます。力不足ではありますが役員一同頑張りますのでよろしくお願いします。

治田町分館長（稻荷山）  
齋藤 真



①本館主催の体育レクリエーションに加え、分館主催の盆踊り、敬老会、人権教育研修会等を新型コロナウイルスの影響を見極めながら、安全第一に感染対策を取り、進めていきたいと思えます。

②本年度は、あらゆる場面で、日常を取り戻すことができるよう、感染対策を図りながら進めていきたいと思えます。地区の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新宿分館長（八幡）

町田 一也



①新宿分館では、7月に隣組対抗スマイルボーリング大会、10月に人権教育研修会、3月に分館報の発行を計画しています。スマイルボーリング大会はこれまでのゲート

ボール大会に代わり初めての開催になります。

②新型コロナウイルスが5類になり、活動が再開します。分館の行事は幅広い年齢層が参加でき、取り組みやすい内容に変わってきています。地域住民の親睦の場でもあるので、大勢の方に参加していただき、楽しんでもらえたらと思えます。皆様のご支援とご協力をお願いします。

芝原分館長（戸倉）

宮原 由裕



①4月には地域里山整備活動の講演会と小中学生・区民皆様の作品展。8月に盆踊り、10月に芝原めぐりウォーキングを予定しています。また、戸倉公民館主催では7月に40才野球大会、10月には戸倉運動会に参加を予定しています。

②3年間コロナ禍で、すべての行事が中止を余儀なくされてきました。「分館活動は不要不急？」という新聞記事がありました。どこも分館役員の成り手がないんだ、分館行

事の人集めが大変なんだ。分館って嫌われ者？と思った次第です。このコロナ禍の3年間を機に、地元を見つめ、できることから始めようと思えます。特に芝原めぐりウォーキングは密にならず地元を知る良い機会と思い計画しました。大勢の参加をお待ちしています。

力石支館長（上山田）

望月 則男



①6月に球技大会、7月に夏祭り、9月に敬老会、10月には運動会等々を計画しています。

②コロナ禍で公民館行事が中止となっていました。感染症の分類が5類へと引き下げられたことから、計画した行事を実施していきます。

これまでのプランクがあるため行事の内容（種目やルール）を熟考し多くの皆様が気軽に楽しく参加でき、ふれあえる場となるよう進めていきます。

皆様のご理解とご協力をお願いします。



# 令和5年度分・支館長の紹介

(敬称略)

## ■戸倉公民館

分館名	分館長
磯部	下寄 邦政
福井	滝沢 素幸
新戸倉温泉	中村 峰明
上町	柳嶋 幸孝
上中町	宮原光一郎
中町	西澤 啓太
今井町	西澤 輝幸
柏王	柳町 達雄
戸倉温泉	畑山 昌也
若宮	水井 清志
芝原	宮原 由裕
仙石	高島 千秋
羽尾第四区	矢島 隆
羽尾第五区	北村 隆
須坂	高松 勇
黒彦	丸山 周平
上徳間	堀口 厚
内川	片桐 義章
千本柳	宮坂 武
小船山	吉池 武利

## ■八幡公民館

分館名	分館長
代	新保 修
大池	平 久悦
姨捨	山口 一幸
峯	岩井 将
中原	青木 弘志
郡	小松 昭浩
上町	宮坂 忠晃
辻	田中 勇次
新宿	町田 一也
森下	長田 正雄
北堀	中村 貴之
志川	高橋 浩明

## ■稲荷山公民館

分館名	分館長
荒町	清水 秀昭
中町	中村 英司
本八日町	高橋 健治
上八日町	市川 正幸
治田町	斎藤 真
元町	塚原 秀之
小坂	中山 和彦
東区	高橋 伸好
中区	沼田今朝夫
西区	池内 信治
大田原	松林今朝尚

## ■屋代公民館

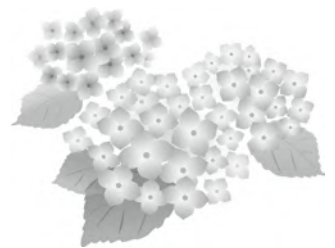
分館名	分館長
屋代第一	北澤 潔
屋代第二	千葉 康弘
屋代第三	富田 雅人
屋代第四	南澤 芳美
屋代第五	月岡 重行
屋代第六	高山 浩
森東	宮尾 千幸
森西	久保 勝則
倉科	山崎 芳照
雨宮	平林 光広
土口	関田 一男
生萱	藤倉 重正

## ■埴生公民館

分館名	分館長
寂蒔	中沢 俊彦
鋳物師屋	宮坂 英雄
打沢	滝澤 克己
小島	熊木 龍男
桜堂	尾崎 眞三
杭瀬下	依田 一徳
新田	中澤 洋
中	丸山 幹雄

## ■上山田公民館

支・分館名	支・分館長
力石	望月 則男
新山	三井 章義
漆原	寺澤 正俊
三本木	水田 宏美
八坂	松林 俊明
中央	合津 誠三
城腰	篠原 秀司
温泉	田口 政弘



## 成人式実行委員を募集

成人式：令和6年1月7日(日)

対象者 平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれの人

応募期限 令和5年6月30日(金)

当日配布するしありの企画など、一生に一度の式典を仲間と共に作り上げてみませんか。

お問い合わせ…  
稲荷山公民館(成人式当番館)  
TEL: 026-272-1009  
FAX: 026-272-7173

令和五年度

よろしく 編集委員です

### 編集委員

◎小林いせ子(稲荷山)

◎飯島 孝則(戸倉)

宮尾 千幸(屋代)

吉澤 勝博(屋代)

宮坂 節子(埴生)

金井與志雄(埴生)

五十嵐忠雄(稲荷山)

柿崎 久(八幡)

久保田唯夫(八幡)

久保田茂保(戸倉)

宮下恵理子(上山田)

森田 正和(上山田)

◎委員長 ◎副委員長

### 主事

岩佐 玲子(屋代)

近藤 美加(埴生)

小笠原千鶴(稲荷山)

坂口 俊子(八幡)

□宮澤 久美(戸倉)

西澤 正樹(上山田)

□当番館

# 公民館人事

4月1日付で各公民館の正副館長が、市教育委員会から次のとおり任命されました。

新任は、屋代公民館長に高木俊雄氏(倉科)、稲荷山公民館長に中山博雅氏(小坂)、八幡公民館長に池田秋政氏(新宿)、屋代公民館副館長に北澤潔氏(屋代)(6月1日付)、稲荷山公民館副館長に上條優氏(野高場)、八幡公民館副館長に永田義明氏(郡)の6名です。

また、3月31日付で退任されたのは、次の3名です。

屋代公民館長の北澤和明氏は2年間、稲荷山公民館長の徳原敏昭氏は2年間、八幡公民館長の宮崎衛氏は5年間、屋代公民館副館長の宮坂陸三



屋代公民館 副館長  
北澤 潔氏



屋代公民館 館長  
高木 俊雄氏



稲荷山公民館 副館長  
上條 優氏



稲荷山公民館 館長  
中山 博雅氏



八幡公民館 副館長  
永田 義明氏



八幡公民館 館長  
池田 秋政氏

## 館長からひと言

八幡公民館長

池田 秋政

日頃は、公民館事業にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

公民館は、地域の皆様へ生涯学習の機会を提供し豊かな人生へのお手伝いをさせていただく「学びの場」であり、また地域の皆様の「集う・交流の場」であります。過去3年間はコロナウイルス感染症に翻弄され、本来の公民館事

氏は2年間、それぞれ務められました。なお、その他の正副館長は再任されました。引き続きよろしくお願いいたします。

業も大きく制限をせざるを得ませんでした。この5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられました。今年こそは従前のような活発な事業に一步でも近づけることができるのではないかと期待しています。

市内6公民館では市民の生涯学習と仲間作りの場として様々な成人講座を開設しており、その様子や受講者の方々の声を公民館報や千曲市ホームページ上に掲載しています。ぜひご覧いただきたいと思います。

また成人講座以外にも、市民講座・各種学級・文化事業・体育事業等様々な魅力あふれる事業を用意していますので、多数の皆様のご参加を心待ちにしています。

## 公民館に期待すること

稲荷山 藤 倉 くに子

稲荷山公民館は、稲荷山・桑原地区の11分館の本館として、重要な役割を担っています。

子どもから高齢者までの方々が学んだり、交流し、結ぶことができる場所として親しまれています。年間を通し、公民館企画の生涯学習、地域の各種団体、子どもたちの教室等数多くの皆さんが利用され、大切な活動場所となっています。

私と公民館の係わりについて振り返ってみますと、子どもたちが小学生の頃、育成会、スポーツクラブのお楽しみ会等、地域の多くの皆さんとの出会いでたくさんのお有益な情報を得るなど、子育ての参考になりました。その子どもたちも家を離れ、私のこれから考えた時、高齢者教室、成人講座他各分野に渡る企画があることを知りました。

高齢者教室では、地域の歴史、健康講座、市外研修等、さまざまな教養を深め学習する機会を得ました。成人講座

は、初めての経験の七宝焼きで、作品作りの楽しみを仲間と一緒に味わいながら、公民館の文化祭で作品の展示を行っています。公民館の数々の企画は、時代の流れに即した内容が組み込まれていて満足しています。

しかし、地域の皆さんが参加し利用できるということでは、子どもたちの参加、利用が少ないと思います。親子教室、子ども広場、子どもたちの居場所作りなど、国を挙げて子育て、子どもへの取り組みが始まろうとしています。時代の流れで核家族化が進み、両親の働く世帯がほとんどです。小学校低学年は、学校帰りに児童館で学習したり、遊んだりして過ごされていますが、高学年の子どもたちの居場所が無いため、公民館を利用できたらと考えます。

そのためには、地域の教育者、知識人、特技のある方々にボランティアとして協力いただき、学習、習い事、遊びの場として公民館を提供していただけたら、地域の人々との交流や繋がりにもなるのではないかと思います。地域の子どもの未来のために、また地域の発展のために、公民館を私も応援をしていきたいです。

# 特集 わがまちの白慢

## 「倉科の里」の発刊

ガイドブック編纂委員長

町田 直幸

倉科は千曲市の東部、三方が美しい山並に囲まれた温もりのある住みよい里で、中央に三滝川が流れその源は名勝三滝です。

「倉科」の名は古く、先住民の遺跡史跡・石碑や伝承話などが数多くあり、中でも大日堂園地の石井の手児の万葉歌碑が有名です。

倉科に向かって富士見橋の信号を過ぎると「倉科の里」の石碑が目に入ります。これは平成17、21年に実施された



倉科の里Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの別冊

まちづくり事業で設置の倉科玄関口のいわば表札です。この事業で公園や散策路などが整備され、一段とシャレた里になりました。この倉科の歴史・文化・現況等を紹介するために当委員会を平成25年に結成し、翌26年12月から既に5冊の冊子を刊行しました。

「倉科の里Ⅰ」は倉科を分かり易く紹介した総合版、「倉科の里Ⅱ 倉科の風土と歴史」について 宮下健司先生講演記録、「倉科の里Ⅲ 民話方言慣習編」、「倉科の里Ⅳ 倉科の地名考」、そして屋代有線放送で紹介した「倉科の里Ⅱ 別冊」です。現在6冊目を作成し

ており、内容は倉科の史話・倉科古事記です。

現在の委員は13人で、郷土の歴史家が遺した貴重な資料をパソコン入力したり、編集に奔走中です。

今までに刊行された「倉科の里」をご希望の方は倉科コミュニティセンター（倉科公民館または屋代公民館）へ、お問い合わせください。

## 菊の御紋の法被をなびかせ、粋に！

寂蒔神楽会 会長 海野 正文



息を合わせて練習中です

「よいきたりや」の掛け声と笛・太鼓のお囃子が聞こえると、勇壮な獅子が息づき、舞い始めます。寂蒔区民の健康と無病息災、五穀豊穰を願

い、音色を響かせてお神楽は巡行します。春祭りは金刀比羅神社、秋祭りには天皇家の御紋をいただいている天皇子神社の祭事の要として、神楽を奉納しているのが「寂蒔神楽会」です。

お祭りの夜の笛や太鼓の音、近くに来て歯をがちがちさせて悪霊をはらってくれたお獅子の姿は、寂蒔の子どもたちの心に引き継がれてきました。その伝統をつないでいくべく、神楽会は活動を続けています。現在総勢11人。かつては、祭りの表に出てくるのは男性がほとんどでしたが、現在女性も2人います。練習は偶数月に1回、お祭りの前に数回行っています。

練習は偶数月に1回、お祭りの前に数回行っています。夜、仕事を終えて集まり、それぞれの受け持ちを練習し、最後に合わせてみます。経験豊かな神楽衆が若い会員に技を伝えていきます。また、おめでたい席で披露される謡にも挑戦しています。和気あいあいとした雰囲気です、楽しく練習をしています。

現在会員の高齢化で舞のできる人が不足しています。回覧板や区報などで神楽への参加を呼びかけるなど勧誘活動も行っています。

### 市民講座開催

大勢のみなさんをご参加をお待ちしています。参加には入場券が必要です。

(入場券配布：6月23日(金)まで6公民館にて)

日時：7月2日(日) 午後1時30分から

会場：信州の幸あんずホール (更埴文化会館)

講師：いとう まい子 氏

講演テーマ：「学び直し」のすすめ ~新たなキャリアを切り拓く~



春祭りにお囃子にのせて獅子が舞う

# サークル 紹介

## ハッピー・ヨーガ

殖生公民館 南沢 好恵

話題のフィットネスインストラクター「タキミカ」こと、瀧島未香さんをご存じでしょうか？ 65歳から運動をはじめ、92歳の今もインストラクターをされているパワフルな方です。

私たちも、「こんな元気な90歳になりたいね！」と話しながら、楽しくヨーガをしています。

発足当時は、子育て中のお



心と体を整えて・・・



体を伸ばして「気持ちいい〜」

母さんがほとんどでしたので、小さなお子さん連れで賑やかでした。15年以上が経ち、メンバーは入れ替わり、現在は50代、70代までの10人です。先生は最初から変わらず西山先生に指導していただいています。

体のあちこちに痛みや不調が出てくる年齢になっていきますので、最後には痛みのある場所を先生に指圧して貰ったり、2人で組んで足や背中、首などをマッサージしあったりします。これがとても気持ちが良いんです！

お仲間を募集中ですので、ぜひ体験に来てください。月に2回（第1、3木曜日）午後1時30分から殖生公民館の1階和室で活動しています。

## 囲碁で、脳と指の 体操を！

八幡囲碁クラブ 柿崎 久

「パチン、パチン」土曜日の午後になると、公民館の一室から碁石を打つ音が響く。囲碁の仲間が集まり、対局をしているところだ。クラブのメンバーは、10人ほどで、坂城町や稲荷山町など八幡地域以外の人もいます。特別に強い人がいない。同じレベルの集まりなので、対局に熱が入る。おもしろいもので、その日の調子で連勝する日と、連敗する日がある。連勝している人は、笑顔が絶えず、連敗した人は、悔しい気持ちで胸が痛み、その日の夜は良く寝れないようだ。みんな土曜日が待ち遠しい。コロナ禍以前は、メンバーの1人がコーヒーターを淹れてくれ、とても和やかになった。

囲碁は、どこに打つか、相手がどこに打ってくるか考える。これが脳の活性化につながり、また碁石を指で挟んで打つので、指の体操にもなる。対局が終わると、ちよっとした検討が行われることもあり、コミュニケーションが深



みんな土曜日が待ち遠しい！

まる。囲碁をしてみたい人は、土曜日の午後八幡公民館でお待ちしています。

## 和気あいあい、 楽しみながら！！

戸倉公民館 北原 豊充

私たち「掬土会きくどかい」は、戸倉公民館創造講座の陶芸教室で学んだ陶芸好きな6人の集まりです。

会としては、約13年程になります。創造講座卒業後にもっと続けたい、もっと成長したいとの思いから土や釉薬の選択、濃さ、掛け方や焼成温度の上げ方など研究しながら、どんな出来映えになるかを楽しんでやっています。

年2回の本焼きに合わせて、皆さんそれぞれに生活必需品から豪華な装飾品や趣味



戸倉文化祭で作品を展示しました

の物まで、多彩に作品を作っています。窯の扉を開ける時の浮き浮き感が堪らなく、思い通りの型、色合いにできたか、窯出し後に批評し合い、お互いのレベルアップに繋がっています。

ここ数年は、コロナ禍に悩まされ、思うように活動できなかったが、以前は研修？会の和を大切に窯元の見学や小旅行に行くなど楽しんできました。今後は、状況や明るい兆しも見えてきているので、楽しみたいです。

活動は、創造館にて毎月2回、第2火曜日と第4土曜日の午後に行っています。この様な気さくな会です。一緒に楽しみながらやってみたい方、興味のある方はいかがですか。



### 今の私は好きなこと で作られている

上山田 小林 真弓

さあ、どんなエッセイを書こうか？ いつも自分が一生懸命にやれることに夢中。それ以外は何も頭に浮かんでこない私。それなら私の夢中で好きなことって何？

さかのぼること幼稚園時代。好奇心旺盛な私は、2つの夢を見つけてしまったのです。

はじめは日本舞踊。母方のおばあちゃんがお稽古する姿をのぞき見して、キレイで何だかとっても楽しそう!!と無邪気に目をキラキラさせ通い始めました。小学校に入りどんどん夢中になった私は、雨や雪の日でも母の手を借りずに30分かけ歩いて通ったものでした。レベルが上がるにつれテープの曲から、先生が三味線をひき唄うお稽古へ。三味線との間が合わずいつも怒られていました。そんな先生の厳しくも愛のある指導のお陰で、高校生になり名取り免許を取れたことは最大の喜び



温泉夏祭り、勇壮に太鼓を叩く

となりました。そして今年から地元上山田の温泉夏祭り民謡流しの踊りの指導を引き継ぎ、夢中が加速しはじめました。  
もうひとつは、温泉夏祭りで見た太鼓をたたく勇ましい姿。ずっと憧れ続け、私もやってみたく「冠着太鼓」に入り、20年間舞台上に立たせていただきました。そして昨年からは、勇獅子の屋台でお囃子の締太鼓にと声を掛けていただき参加。早いリズムは難しく自己練習は欠かせません。先輩方との練習はとても緊張し、バチを持つ手に汗がにじみ、大きな声と本番さながらの「ドッコイ、ドッコイ、ドッコイ」は、いなせな感じとピリッとした空気が漂います。  
2つの夢中は、これからも私の人生を大きく変えていくでしょう。

## 写真、エッセイ などを募集



公民館報編集委員会では、広く市民の皆さんに参加していただき、より親しまれる内容の館報にしたいたいとの思いから、皆さんの原稿を募集しています。館報の表紙を飾る写真やエッセイ、わがまちの自慢など原稿の内容は問いません。また、館報に対するご意見ご感想などもお寄せください。なお、詳細については最寄りの公民館にお問い合わせください。

## 戦争体験記募集!!

毎年8月号に掲載の「戦争体験記」を募集します。

戦争及び戦争時の暮らしの体験や、家族や人から聞いた戦争体験など、次の世代へ伝えていきたい内容を書いて応募してください。400字詰原稿用紙2枚～3枚程度にまとめ、写真などがありましたら付けて最寄りの公民館にお出してください。取材させていただきます、文章を作成することも可能です。応募の締め切りは  
**6月12日(月)**です。



## 短詩型文学祭 作品募集

千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第28回更埴地区短詩型文学祭を開催します。

応募要領と投稿用紙は最寄りの公民館に用意してありますので、奮ってご投稿ください。

### 【募集期間】

7月3日(月)～8月31日(木)

### 【募集部門】

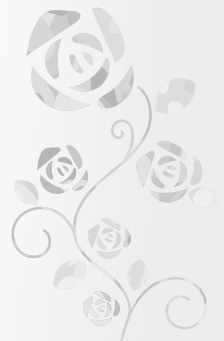
短歌・俳句・川柳・現代詩

### 【投稿料】

応募用紙1枚につき500円  
(小・中・高校生は無料)

### 【投稿先】

各公民館



※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

もっと知りたい

ふるさと

92

# 小船山の延命地藏尊

善女布り地藏の頭巾や風光る

近くに寄ってお顔を拝すると、善光寺のおびんずる様ほどではないが、

右の短冊は、某女性の仏前にAさんが供えてくれた短冊で、延命地藏尊(以下、お地藏さんとする)の赤い頭巾を作っていた彼女を悼み、持参してくれたものである。お地藏さんは昔も今も小船山にとって大きな存在である。『小船山分館全面改築記念誌』に付属する「小船山の生いたち」(以下、区史とする)の記載について、Aさんからお聞きした話を付け加えて紹介してみたい。

目鼻立ちが少し明瞭さを欠く。「お守りにとお地藏さんを削っている現場にAさんの知人が出くわし、その者を叱りつけたことがあった」ことや「前はもっとよいお顔だった」ともAさんから聞いた。

区史に「口承では、村の女衆が満水の後の川原に出かけ、流れ着いたらしいお地藏さんを見つけ、魅入られ、家に帰って旦那に話し、その男衆がもっとで運んできて達所場※に安置した」となっている。

明治22(1889)年、隣り合う5カ村が合併して五加村となった。やがて村を縦貫する大動脈、五加線が開通した。お地藏さんはその五加線小船山南入口に座している。

また、「明治33(1900)年、それまで野ざらしだったことを気の毒に思い、地藏堂宇を建てると協議し、隣村までも1銭、2銭と奉加を募って歩き、新築が成った。村を2つに分け、それぞれより2軒ずつが当番になり、春・秋の彼岸の中日に例祭を行ってきた」とある。徳應院(中村)の千村仙鼎住職から授与された褒状がお地藏さん世話役のお宅に残っている。それからでも123年が経つ。



小船山の延命地藏尊

寛保2(1742)年の千曲川大洪水は「戌の満水」として重く語り継がれている。これについての区史の記述に、「流死体累々 達所場に無縁仏として埋葬し供養した」とある。また別の個所にも「埋葬した場所は亡骸で高く盛り上がり、今でも小高く・・・」との記述がある。お地藏さんはその埋葬場所に安置されているのである。この大水害で堤防の切れた上徳間・内川・寂蒔の近隣3カ村で272人が流れ死亡した。これは小船山村民とほぼ同数である。彼岸のお中日の例祭では、その丸い盛り土を囲んで大数珠を廻し、「南無阿弥陀仏」を合唱してきた。

昭和58(1983)年、五加線拡幅のため、地藏堂宇を2ヶ所移し全面改築した。その基礎工事で削った盛り土の下から人骨が出たため、Aさんは、「言い伝えられている通りだったと拝みました」と話されている。

いろいろな見聞きするうちに「お地藏さんの場合は小船山の女衆のコミュニケーションの場、交流の場になっていて、

それこそがお地藏さんのご利益の一つであったのではなかったか」と思った。お地藏さんの言い伝えが川原での女衆とお地藏さんの出会いから始まっているのには、そんな意味が暗示されているように思える。小船山の女衆の玉ネギ体験指導、協同の味噌造り、地粉のうどん作り、姨捨棚田のポランテイヤ等々、進取の気風のルーツはそこにあっただけではないと思う。

冒頭の信女は、いよいよ重くなる病の床で、夫に信頼する友の名を挙げ、ダンスの赤い布をもって訪ねてほしいと頼んだ。7年経つ今もその方

## 編集後記

山々の緑が一段と濃くなり、川辺ではホタルが見られる季節になりました。今年の春は自粛されていた祭りが各で行われまして。森地区では、昨年できなかった大宮神社御柱祭が、規模は縮小されたものの厳粛かつ盛大に行われました。山里に木遣りやラッパの音、掛け声が響きわたり、子どもから大人まで大勢で御柱が曳かれ、途中獅子舞・日本舞踊の奉納

もあり、心躍る祭りでした。ここ3年間は新型コロナウィルスの影響で、各分館で計画されていたほとんどの事業が中止になっていました。5月に新型コロナの位置付けが5類に引き下げられ、公民館・地域ではさまざまな事業が計画されています。5類になってもウィルスがなくなつたわけではなく引き続き配慮が必要ですが、地域のコミュニケーション・親交を図るうえからも公民館活動は大切であり期待されます。(屋代 M)



大数珠を廻し、合掌する人たち